

# タンポポの花

## ●花は小花の大集団

1個の花のように見えるのは、何百という小花（しょうか）の集まりだ。これを頭状花（とうじょうか）とか頭花（とうか）という。頭花を切ってみるとそのようすがわかる。1個の小花は、形は変わっているが各部をそなえた一人前の花だ。（p36,146）



頭花がつぼみのときこれを包んでいた緑の小片を総苞片という。花が開いたときも頭花の外側についている。これをがく片とってしまうと誤りである。総苞片の形はタンポポ類の区別をするときの目安の一つになる。



▲一つの花をはずしてみた。タンポポ類は舌状花だけ。



▲セイヨウタンポポの頭花。

# キクイモの花

## ●ヒマワリに似た花

タンポポと同じように頭花だが、違うのは小花に二つの形があること。頭花のまわりにある舌状花（ぜつじょうか）と中心部にある管状花（かんじょうか）だ。キクイモは8～9月ごろ咲く。（p142）



中心部にあるのは花冠が筒形で目立たない花（管状花）

まわりにあるのは花冠が大きく目立つ花（舌状花）

▲キクイモの頭花（断面）



▲キクイモの管状花。左から雌しべの出た時期、雄しべの時期、つぼみの時期。頭花の外から中心に向ってこの順に見られる。

## コセンダングサの花

コセンダングサ（p138）の頭花は管状花だけの集まりである（写真右は断面）。タンポポの頭花は舌状花だけの集まり、キクイモは管状花と舌状花の両方の集まり。キク科の頭花には3タイプがある。

